

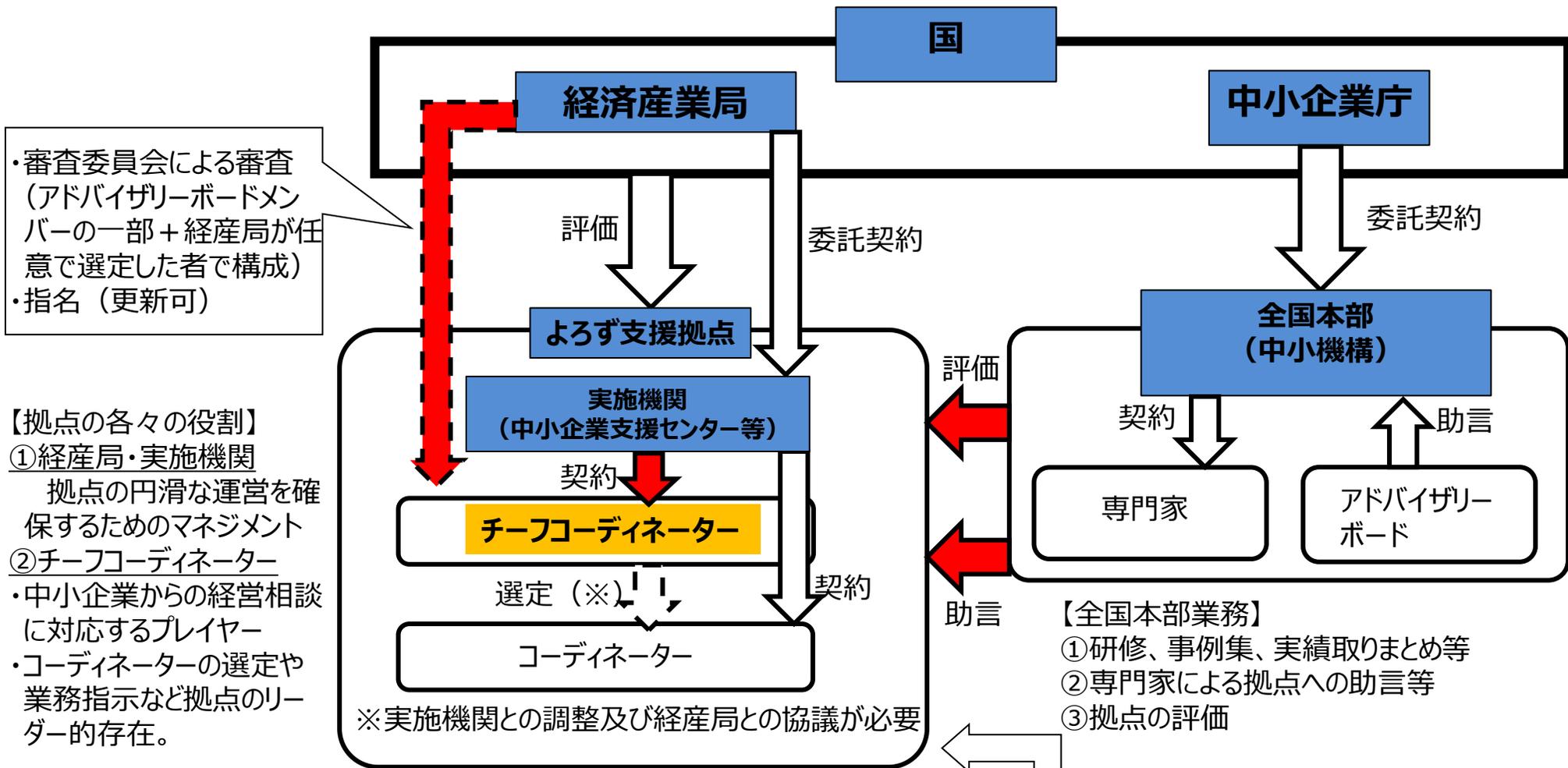


# 「よろず支援拠点」の運用見直しについて

平成 2 9 年 1 月 1 6 日

中小企業庁

# よろず支援拠点事業の現状の運営



・審査委員会による審査 (アドバイザーボードメンバーの一部+経産局が任意で選定した者で構成)  
・指名 (更新可)

【拠点の各々の役割】

①経産局・実施機関  
拠点の円滑な運営を確保するためのマネジメント

②チーフコーディネーター  
・中小企業からの経営相談に対応するプレイヤー  
・コーディネーターの選定や業務指示など拠点のリーダー的存在。

(参考) チーフコーディネーター・コーディネーターの保有資格

	公認会計士	行政書士	司法書士	社会保険労務士	税理士	中小企業診断士	弁護士	弁理士	技術士	建築士	情報処理技術者
チーフコーディネーター	1	0	0	1	2	22	0	0	0	0	0
コーディネーター	4	13	1	27	23	192	12	5	7	6	20
	販売士	ISO審査員	ITコーディネーター	カラーコーディネーター	ファッションアドバイザー	貿易アドバイザー	調理師	フードコーディネーター	ウェブデザイン技術士	不動産鑑定士	その他
チーフコーディネーター	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5
コーディネーター	17	4	28	6	17	0	3	4	3	1	135

※チーフコーディネーター・コーディネーターの自己申告によるもの。複数回答あり。

## <参考> 全国本部の取組

※ 前回（第11回）中小企業経営支援分科会（独）中小企業基盤整備機構提出資料を一部加工。

### 全国本部専門家の体制

- アドバイザーボード  
5名の委員で構成。全国本部の運営や拠点の評価等について審議し、助言を行う。
- プロジェクトマネージャー等  
5名の専門家が各担当地域の拠点を定期的に訪問し、各拠点の現状把握や必要な助言を行う。
- サポーター  
全国本部に登録されている20名の専門家が、拠点からの要請に基づき、支援のアドバイス等を行う。

### よらず支援拠点の支援スキルの向上

- 各拠点の**専門家のスキル向上**を図るため、これまでの全国研修（年2回）やブロック研修（7ブロック×年2回）に加え、今年度から**中小企業大学校**での**CO研修**や**富士市産業支援センター（f-Biz）**等での**OJT研修**を実施中。
- 今年度から、**全国本部専門家が拠点を訪問した際に、個別相談に同席し、必要な助言を実施。**訪問結果は、全国本部専門家会議において国に報告し、拠点のレベルアップに向けた方針等を決定し、次回の**拠点訪問時にフィードバック。**

### 地域の支援機関との連携強化

- 全国本部に関係機関との連携を強化するための**専任の専門家を配置。**商工会、商工会議所等に加え、**商店街振興組合**や**観光協会等**を訪問し、連携を図るとともに、**団体の機関紙等**で拠点の**PR**を依頼。

# よらず支援拠点事業の運営の見直しに係る論点

1. チーフコーディネーターは経営相談の専門家として自ら相談に応じるとともに、コーディネーターを指揮し、相談者の対応について責任を負っている重要な役割を担っていることに鑑みれば、その人選が重要であるが、どのような人選の在り方が適切と考えるか。
2. 各拠点の支援レベルに差が出ているとの指摘も存在する中、実態を踏まえながら全国各地での最高水準の支援を実現するためには、どのようなメンバーが評価を行うべきか。また、全国本部は拠点の日々の事業運営に対して助言をするに止まっているが、全国各地で最高水準の支援を実現するためには、その程度の関与で十分と考えるか。

# 今後のよろず支援拠点のPDCAの概要（案）

- 期初に国・全国本部が活動方針を提示。事業計画の策定に際しては、各拠点が地域の中小企業や中小企業支援の実状等をしっかりと分析した上で定める。併せて、従来の指標のほか、地域の実状を踏まえた重点的に取り組むべき分野の目標設定を行い、期初面談を経て確定。
- 評価に際しては、相談対応に関する複数の項目で構成されるチェックリストを作成し、当該リストを用いたヒアリングで拠点の活動実績を確認する。

